

岸田外務大臣によるラ・エストレージャ紙（パナマ）への寄稿文

（5月1日掲載）

昨年10月、マルティネリ大統領御夫妻の訪日が成功裡に行われ、新たな日本とパナマの関係の第一歩となったことは記憶に新しいところです。日本とパナマとは100年を超える友好関係の歴史がありますが、マルティネリ大統領は首脳会談の中で、両国を「友情以上の兄弟のようなものである」と形容されました。

兄弟国である両国は、国の発展が海運に立脚しているという点で共通しております。それ故、特に海運・通商の面で緊密な関係を維持してきました。

日本では、パナマと言えばまずパナマ運河を思い浮かべ、学校の教材にも登場するほどよく知られた存在です。現在日本は世界第4位のパナマ運河利用国であり、パナマ運河は日本にとって正に交通の要衝です。また、現在進められている運河の拡張には、日本政府のみならず、日本の産業界も注目しているところです。約1世紀前、日本人技術者が運河の建設に参加し、その技術を日本に持ち帰って治水事業に役立てたという史実がありますが、これはパナマ運河と日本との長い関係の一端を物語っています。

運河に加え、パナマの安定した高い経済成長と、中南米の流通の

ハブとしての重要性にも日本企業は注目しています。パナマを通じて日本企業の中南米進出が増え、日本と中南米の関係が一層発展することを期待しております。

中南米地域は、今や民主主義が定着し、アジアと並ぶ世界経済の成長センターです。

民主主義や法の支配等、基本的な価値観を共有する中南米を我が国は国際社会におけるパートナーとして重視しています。気候変動問題、軍縮・不拡散など国際社会が抱える問題への対応において日本と中南米は緊密に連携しています。

経済関係においても中南米は、経済の再生を図っていく日本にとって共に発展するパートナーです。中南米は人口6億人の成長する市場を有するとともに、日本にとって重要な資源・食料の供給地域であり、中南米に進出する日本企業は過去5年で約200社増えました。

また、日本は、中南米の多くの国が促進する「社会的包摂」の理念を共有します。経済成長の裏で取り残される人が生まれないうよう、日本は中南米の都市問題の解決・貧困削減・格差是正のため、今後ともきめ細かい支援を継続する考えです。

パナマは日本にとり太平洋を挟んだ大切な隣国であり、約1世紀に亘って友好の絆を築いたパートナーです。その長い歴史の中で、私がパナマを訪問する初めての日本の外務大臣となるのは、誠に光栄なことです。自分の目で今のパナマを見て、パナマの友人達と語り合うことを通じて、私の今回の訪問がその絆を更に深める一助になればと願っています。

(1, 077文字)